



TITLE:

社會批評家トシテノかあらいる(一)

AUTHOR(S):

石田, 憲次

---

CITATION:

石田, 憲次. 社會批評家トシテノかあらいる(一). 經濟論叢 1917, 5(5): 748-753

ISSUE DATE:

1917-11

URL:

<https://doi.org/10.14989/127284>

RIGHT:

# 社會批評家トシテノ

かあらいる (一)

石 田 憲 次

「かあらいるノ偉大ニシテ且ツ實際的ナ事業ハ、功利主義ニ對スル攻撃デアッタ。ソレハ實際世ヲ益シタ。ヨシヤ彼ガソノ代リニ唱導シタ歴史哲學ニハ、混乱且ツ危險ナル點ガ多カツタニセヨ。國家ノ殷富ハ人民ノ繁榮ニ非ズテフ當代ノ大真理ヲ、衆人ニ先ンジテ明カニ見、明カニ説イタコトコソ彼ノ眞ノ光榮デアル。……かあらいるハ、若シまんちえすたあ富ミ榮エツ

ツアリトイフ事當レリトセバ、まんちえすたあ貧シクナリツツアリトイフモ亦當レリ、換言スレバ、まんちえすたあハ毫モ富ミツツアルニ非ズ、タダ富ミ行クモノハ、まんちえすたあノ比較的好マシカラザル人士ノ一部ナリトイフ事ヲ指摘シタ(彼ガ他ノ問題ニ關シテ顯セルニモ優ル洞察ト戯謔トヲ以テ)。コノ點ニ於テ彼ハ遙カ後ノ國民的發達ト相關聯シテ特筆サルベキデアル。蓋シ、彼ハ斯クシテ社會主義者ノ第一ノ豫言者トナツタノデアアル。さあたあ・りさあたすハ天晴レノ幻樂デアアル。佛國革命モ、種種缺點ハアルガ、實際立派ナル一個ノ歴史デアアル。英雄ニ關スル講演ハ數個ノ精妙ナル人格描寫ヲ含ンデ居ル。併シ我輩ヲ以テ考フルニ、過去ト現在及びちやあちすむ論ニ於テコソ、かあらいるハ神ト人トニ選バレテ成シ遂グル事ヲ命ゼラレタ仕事シ成シ遂ゲタノデアアル。」

コレ英國現代ノ批評家ちい・けい・ちえすたどんノ言デアアル。其ノ批評ガ全ク正鵠ヲ得テ居ルカ、否カニ就テハ、多少ノ議論アラムガ、か

(1) The Victorian Age in Literature by G. K. Chesterton p. 54-p. 56. London, Williams and Norgate.

あらいるガ社會批評家トシテ如何ニ高キ位置ヲ占ムルカハ、自ラ明白デアアル。

かあらいるガ勞働者ノ問題ニ留意シ、社會改良ノ必要ヲ曉ツタノハ、夙ニ彼ノ青年期ノ事デアアル。かあらいる傳者ノふるうどハ、コレヲ千八百十八年、かあらいる二十四歳ノ時迄溯ツテ傳ヘテ居ル。ソノ頃なほれおん戦争ノ後デ、世間ノ景氣ガ一般ニ沈滞シテ居タ。賃金ハ低廉ニシテ、食物ハ饑饉年同様ノ價デアツタ。<sup>(1)</sup> かあらいるハ父ノイフヲ聞イタ。サウシテソノ言葉ニハ洞見ヨリ來ル強イ力ガアツタ。「貧乏人ノ境遇ハ日々益々惡クナツテ行ク、世間ハコノ儘デハ續キハセヌ、マタ續カウ答モナイ、誰モ將來ヲ見越ス事ノ出來ヌ大變化ガ迫ツテ來ルノダ」ト。又、<sup>(2)</sup> おうとみいるガ一すとうん十志ニモナツタ物價騰貴ノ年ニハ、勞働者ガ一人一人小川ヘ引込ミ、サウシテ其處デ飯ヲ食ハズ、水ヲ飲ンデ、タダ人ニ知ラレン事ヲノミ氣ニスルノヲ見タト、彼ノ父ハイツテ居タトかあらいるハ書キ傳ヘテ居ル。其ノ頃かあらいるハソノ無二

ノ親友あーがいんぐト相會スル毎ニ、人民ノ境遇ヲ問題トシテ論ヲ闘ハセタ。彼等ハ共ニ急進主義者デアツタ。サウシテ時弊ヲ匡救スル事ノ如何ニ困難ナルカハ、ナホヨクコレヲ知ラナカツタ。

翌千八百十九年ニハ、ぐらすじうニ急進主義者ノ暴動ガ起ツタ。ソノ頃えちんばらニ在ツタかあらいるハ、ぐらすじうカラ馬ニ乗ツタ急使ガ泥ダラケニナツテ、えちんばらニ着キ、又えちんばら地方ノ義勇兵ガ勢揃シテ、ぐらすじう護衛ニ向フノヲ見タ併シ彼ノ同情ハ寧ロ暴徒ノ方ニアツタ。<sup>(3)</sup> 彼ハ「カカル虚偽、詐瞞、全然無意義ナル形式ノ重荷ニ對スル反抗ハ、何時カ缺クベカラザルモノトナルニ違ヒナイトイフ感じ——ソノ中ニ、一種燥急デ、虚偽デ、半バ傲慢ナ喜ビヲ寓セル感じ」ヲ持ツテ居タノデアアル。其後間モナク、かあらいるハ獨逸文學ノ研究者、紹介者トナリ、殊ニげえてニ傾倒シタ。併シコノ二人ノ間ニハ著シキ氣質上ノ相違ガアツタ。師ノ藝術科學ニ對スル獻身ノ態度、凡俗ヲ

(1) Reminiscences Vol. 1. p. 48 Chas. Scribners Sons, New York

(2) Froude: Thomas Carlyle Vol. 1. p. 59 Charles Scribners Sons, New York.

青眼ニ見テ靜ニ微笑ム觀照家の態度ハ、弟ノ到底學ビ得ルトコロデ無カツタ。かあらいハ思

索家タルト同時ニ實行家タラム事ヲ欲シタ、彼

ハ所謂「簡易ナル生活、高尚ナル思索」ノ清福ニ

憧憬レナガラモ、一方英國ノ現狀ヲ見テハ、カ

カル時代ニカカル事ニアクガカル事ソレ自身ガ

既ニ一種ノ利己心ニアラザルカヲ思ツタ。當時

かあらいハ心中ニ往來シタ思想ハ、ヨクコレヲ

ふるうどノ頁ニ認メル事ガ出來ルノデアル。

(1) 千八百三十年九月九日ノ日記ノ一節ニイフ。

「現代ノ弊ハ享樂主義デアル。ほいぐモ、凡

テ溫和主義ノとおりの偉大ナル享樂主義者デ

アル。私ハ彼等ニハ益々辛抱シキレナクナツテ

來タヤウニ思フ。此ノ世界ハ人ガ髭ヲ枯ツテ立

ツテ居タリ、仕事ヲ傍觀シタリ、手袋ヲハメタ

手ノ尖デ仕事ニ觸ツテ見タリスベキ世界デハナ

イ。人ハ眞面目ニ仕事ニ取り掛カルベキデア

ル。カカル生溫イ婆ビタ混血兒ヨリハ、無神論

ヲ奉ズル功利主義者、迷信家ノ徹底的とおりの

ノ方ガマダシモ望ミガアルノデアル。」

(2) 千八百三十一年二月七日ノ日記モ亦、彼レノ憂憤ノ餘瀝ヲ染メテ居ル。

「歐羅巴ハ騷擾、否ナ革命ノ狀態ニアル。今

時分ニハ倫敦デ彼等ガ英國改良ノ問題ヲ討論シ

テ居ルカモ知レヌ。議會ハ先週開ケタノデアル。

水曜日ニハソノ報知ガ得ラレル筈。時勢ハ變革

ノ兆ニ充テ滿チテ居ル。一世紀間絶エザル動搖

デ事ハ足ルダラウカ。ソレトモ二世紀カカラネ

バナルマイカ。彼奴等ノ議會改革ナンドハ取ル

ニ足ラヌ。始マリ(善及ビ惡ノ)ダ。ツイ、ソレ

ダケノ事ダ。社會ノ骨組ガ全體廢ツテ居テ、薪ニ

スルヨリ外ハナイノダ。サウシテ新シイ骨組ハ

何處ヘ行ツタラ得ラレルノダ? 私ハ知ラナイ、

誰モ知ラナイ。」

彼ノ英雄崇拜ノ思想モ亦國家社會ノ事ニ關シ

テ、ソノ表現ヲ得テ居ル。

(3) 「國王ハ神權ニヨツテ支配スル、然ラザレバ全

然支配スルヲ得ズ。神ヨリ命ゼラレタル國王ハ

神ノ表象デアツテ、吾人ヨリ凡テノ服従ヲ要求

スル事ガ出來ルデアラウ。併シカカル國王今何

(1) Froude, Thomas Carlyle, vol 1. p. 73  
 (2) Do. p. 77  
 (3) Froude, Thomas Carlyle, vol 2. p. 77

レニアリヤ。一番ノ善人——我等モシ彼ヲ見出  
ス事ヲ得バー——彼コン即チソノ人デアラウ。我  
等ニ告ゲヨ、我等ニ告ゲヨ。アア汝法典家、統  
計學者、經濟學者ヨ。我等如何ニシテ斯人ヲ見  
出シ、斯人ヲ帝座ニ上セム。若シ告グルヲ得ズ  
バ、汝ハ罪唯々政治ノ科學ヲ知ラザルノミニア  
ラザルヲ認メヨ」

千八百三十年ハ佛國ニ七月革命ガアツタ。英  
國ハソノ波瀾ヲ受ケテ、改革運動ノ火ノ手ハ熾  
ニナツタ。かあらいるハ其ノ新妻ト寵レルけれ  
いげんばとつくノ幽棲ニアツテ、獨リ時事ノ非  
ナルヲ慨シタ。<sup>(1)</sup> 彼ノ此ノ頃ノ時評ニハ性急ナル  
過激派ノ思想ガ鳴リ響イテ居ルトイフ。かあら  
いるノ同情者ニシテ、かあらいる夫人ノ親戚且  
景仰者ナルぢえふりい、にぢんばら評論ノ主筆  
トシテ、ほいぐ黨ノ領袖トシテ有名ナリシぢえ  
ふりいハ、或ハ書ハ寄セ、或ハリザワザ陰寒荒  
涼ノ高地ニアルかあらいるノ僑居ヲ訪ネテ、か  
あらいるヲ、彼ガ矯激ナル急進思想ト考ヘタモ  
ノヨリ、正統ノほいぐ主義ニ改宗セシメントシ

タ。ぢえふりーノ心ニハ、無論親切ガアツタノ  
デアル。彼ハかあらいるガ曠世ノ偉才ヲ懷キナ  
ガラ、ソノ狷介孤峭ヨリ荒涼ノ地ニ貧寒ノ生活  
ヲ行ヘルヲ見ルニ見兼ねタノデアル。彼ハソノ  
爲メ彼ノ友ヲ普通ノ人ノ世界ニ引キ下サント試  
ミタノデアル。殊ニハ彼ハかあらいる夫人ノ爲  
メニ悲シダ。彼ハ彼ノ所謂「花恥シキいぶ」ヲか  
あらいるノ醉興故ニ、くれいげんばとつくノ「呪  
ハレタル樂園」ニ委シテ置クニ忍ビナカツタノ  
デアル。併シかあらいるハ彼ガ嘗テ母ニ宛ツル  
手紙ニ引用シタだらんベーるノ言葉ノヤウニ、  
眞理及ビ自由ヲ愛スル爲メニ、貧ヲ愛シタ人デ  
アツタ。彼ハ敢然トシテぢえふりいニ下ラナカ  
ツタ。彼ノぢえふりいヲ評シタル日記ノ一節ヲ  
見ヨ。

「最モ高キモノ、彼ハソヲ他ノほいぐ黨員同様  
ニ、唯ノ飾リ、副ヘ物ト考ヘルノデアル。人ノ  
大ナル務メ、彼ハ理智上ニ於テソヲ世ノ才人同  
様ニ、幸福デアル事ト考ヘルノデアル。……  
彼ハ神トまむもんとノ中間ニ立ツテ居ル。而シ

(1) Froude, Thomas Carlyle vol. 2 p. 100.

テ彼一生ノ説教ハ兩者ヲ妥協サセヤウトイフ試ミデアツタ。コノ故ニ彼ノ俗受ケガアルノデアアル。而シテコノ俗受ケタルヤ、世間ヲ見、彼ヲ見レバ容易ニ解ルコトデアアル。併シソレハ二者何レニモ名譽デハナイ。」

ぢえふりいノ優シキ心持、無私ノ態度ハ、併シ、かゝるにあるノ心ノ奥ニテ充分ニ認メ感謝シタトコロデアツタ。彼ハ同ジ日記ニイフ。

「私ハ彼(ぢえふりい)ガイフヲ聞イタ。——愚昧ガ幸福ナモノナラ、私ハ馬鹿ニデモナラウ——併シ彼ノ日常生活ハコノ教義ニ背反シテイフノデアアル。——タトヘ善良トイフ事ガ最モ悲慘デアラウトモ、私ハ善良デアラウ」ト。

かゝるにあるガ、彼ノさんしもん派ノ社會主義者ニ心牽カレタルモ、太凡コノ時代ノ事デアアル。彼ハげえてニ送ル手紙ニ彼ノさんしもんにむニ對スル同情ヲ披瀝シタト見エ、げえてカラ、危<sup>(2)</sup>キニ近ク勿レトノ忠告ヲ受ケタノデアツタ。

<sup>(3)</sup> 千八百三十一年十月十日ノ日記ニハ、彼ハ選舉法改正案ガ四十一票ノ多數ニテ葬ラレタ事ヲ

傳ヘテ居ル。同情ハ持チナガラ、餘リ重キヲ置カナカツタかゝるにあるハ別段感情ノ動搖ヲ示シテハ居ラヌ。併シ彼ノ憂國ノ至情ハ愈々益々厚キヲ加フルノミデアツタ。かゝるにあるノ心ノ奥底カラ發セラレタ次ノ聲ニ聞ケ。

<sup>(4)</sup> 「ソレハ兎モ角、人ノ眞ノ義務ハ何デアラウカ。ソレハ全ク政治ニ遠カル事デアラウカ(ソノ日ソノ日ノ政治ニ遠カルベキハ無論ノ事ダガ、一般ニ社會制度ニ就テノ思索等ヲモ全ク廢セネバナルマイカ)。或ハ恐ラク、當代ノ缺乏ハ統治者ノ無限ノ缺乏、如何ニシテ自ラ統治スベキカノ知識ノ無限ノ缺乏デアアルマイカ。汝ハ幾分ニテモ人心ノ心ニ畏敬ノ念ヲ弘布シ得ルカ。然ラバソハ如何ナル他ノ事業ヨリモ遙ニ尊イ事業デアラウ。ソレハ藝術ニヨツテ成サルベキダラウカ。或ハ人々ノ心ハ猶藝術ニ向ツテハ閉デラレ、唯精々雄辯ニ向ツテ開ケテ居ル位ナモノダラウカ。まゐすたあげてノ傑作小説ニハ適メズシテ、タダといふえるすざれつく(かゝるにあるノさあわりさあわすノ主人公、ココニテハさあわりさあわすノ書

(1) Froude, Thomas Carlyle, vol. 2p. 110

(2) 'Von der Soci t  St. Simonien bitte Dich fern zu halten.'

(3) Froude, Thomas Carlyle vol. 2 p. 166.

(4) Froude, Thomas Carlyle vol. 2. p. 166-167

ソレ自身ノ代名詞トシテ用ヒラレタハ、アル。ノ漸次ヨク  
ナツタモノニシカニ適シナイノデアラウカ。三  
思セヨ、而シテ沈黙ナレ。」

① 同ジ年ノ十一月十三日、かあらいるガ倫敦ノ  
客舎ヨリ弟ぢよん・かあらいるニ宛テタル手簡  
ニモ、如何ニ深ク彼ガ時勢ノ急迫ヲ感ジタカガ  
アラハレテ居ル。

「ぶりすとるニ恐ロシイ暴動ガ起ツタ。數百ノ  
人命ハ失ハレ、公共ノ建物ハ皆焼カレタ。……  
眞ニ英國ノ政治上ノ形勢ハ私ヲシテ駭魂セシム  
ル。佛國革命ノ二ノ舞ハハ明カニ豫想ノ範圍内  
ニアルノデアル。蓋シ今ヤ人々ノ間ヲ結ブ羈絆  
ハ何處ニモ一ツトシテ残ツテ居ヌノデアル。到  
ル處、宮廷ニモ本山ニモ、厚顔ナル虚偽ガ今ヤ遂  
ニ虚言ノ罪ヲ證セラレテ立ツテ居ルノデアル。  
而シテ饑餓ニ瀕セル無智ノ民ハ、虚偽ヲ屠レヨ、  
虚偽ヲ屠レヨト叫ンデ居ルノデアル」。